

「スリットフープ」立てたまま荷台へ

鋼材流通大手の藤田金属（社長・今井幹太氏）のグループで鋼材のB to B マatchingサービス事業を手掛けるテンテコ（本社・新潟市）は、



フォークリフトで荷役作業可能

スリットフープ製品を「立てた状態のまま（アイサイド状態）」でトラック輸送できる鋼製の専用架台を商品化。

「tentecoLuck（テンテコラック）」の商品名で販売を開始した。

「tentecoLuck」はテンテコが自社開発した立てフープ運搬専用架台。価格は標準的仕様で1台当たり30万円（税別）とした。

◀2面に詳細

荷役・配送専用架台

テンテコ
(藤田金属グループ)
が販売開始

「立てフープ運搬」用架台

コイルセンター！運送業に拡販

藤田金属グループのテンテコ

鋼材のB to Bマッチングサービス事業を手掛ける藤田金属グループのテンテコ（<https://tenteco.jp/>）は、スリットフープ製品を「立てた状態のまま」でトラック輸送できる鋼製の専用架台を開発・商品化した。このほど受注を開始し、フープ品を加工・荷役・運搬するコイルセンターやスリット加工、物流・運送企業などを対象にPRし、普及・拡販につなげていきたい考え。（1面から続く）



フープを載せた「tentecoluck」をフォークリフトが運搬

といった普通鋼薄板のほかステンレスやアルミなど非鉄金属など各種フープに対応する。フープ単重は、おおむ

作業効率が向上。対象となるフープの幅・高さや総重量については、フォークリフトの仕様によって異なる。固縛装置や転倒防止治具も装備するなど安全・管理面にも配慮。フォークリフトで荷役できるので平ボディー車だけでなくウイング車での配送も可能だ。そのほか①スタンション（倒れ防止治具）が不要②小口・混載配送が可能③少量フープであればトレーラーや大型トラック

自社開発の

立てフープ運搬専用架台は、商品名を「tentecoluck（テンテコラック）」と命名した。架台のサイズは850ミ×1400ミで、自重は約220キログラム。熱延黒皮品や酸洗、冷延、めっき

型トラックによるチャーター便が要らず、運賃が安価といった特長がある。テンテコでは、標準的な仕様で1台あたり30万円（税別）に価格設定し、4月から受注活動に着手。受注生産を原則とし、製作は藤田金属の厚板加工拠点である新潟鋼板センター（東区榎町）が担当する。現在の内製能力は月産20台。



「tentecoluck」（写真はメタル便のトランク）

「tentecoluck」の開発・製作を進める。

属では、各事業拠点の所有を検討しているほか、同じく初期段階から協業してきた鋼材小口混載サービスを手掛けるメタル便も、まずは関東・中部・関西の主要HUBで購入し、必要に応じてその他のHUBでも順次、検討を進める。